

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	奈良県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
奈良県	特別支援学校	知的障害	な ら け ん り つ こ う と う よ う ご が こ う 奈良県立高等養護学校

2 研究課題

「就職率100%を目指した学校」をスローガンに、卒業後の就職を目指す高等部単独設置の知的障害特別支援学校を対象に、生徒のキャリア発達を促すための授業や職場実習の在り方を探り、生徒の就職率向上を目指す。

3 研究の概要

モデル校の特別支援学校は、今年度より県立高等学校3校に分教室を設置し、職業等に関するコースを設定することでキャリア教育の充実を図り、職業教育の充実及び就職率の向上を目指している。目的達成に向けて、キャリア教育コーディネーターをモデル校に2名配置し、各コースに応じた授業や職場実習の在り方について研究を昨年度に引き続き進めた。

【モデル校における取組】

今年度も昨年度に引き続き、職業等に関するコースに応じた職場実習先及び協力企業に対し、キャリア教育コーディネーターが開拓を進めるとともに、企業が求める人材等について情報収集を行い、昨年度作成した「授業改善シート」や「キャリアチェックシート」を活用し、授業や職場実習の在り方についての改善を図った。

また、連絡調整会議を開催し、職業教育の充実と生徒理解について関係機関との情報交換を行ったり、職場実習受け入れ企業に対して学校見学等を実施したりすることで、生徒理解を深め、職場実習及び就職の受け入れの促進を図った。

【高等学校における取組】

キャリア教育コーディネーターが中心となり、高等学校に在籍する発達障害等による特別な支援を必要とする生徒の学校生活や進路指導について、高等学校の特別支援教育コーディネーター等に対して情報提供や相談支援を実施した。

【指定校以外の特別支援学校における取組】

特別支援学校進路指導研究会において、事業の趣旨や進捗状況について定期的に情報共有を行った。また、指定校以外の特別支援学校の進路指導担当者に対して、必要に応じてビジネスマナー講習等への参加を勧め、障害のある生徒の就職率向上を目指した。

4 研究の成果

2名のキャリア教育コーディネーターと進路指導担当者とが連携し、職場実習及び就職の受け入れの継続依頼や新規開拓を目的に、企業訪問を実施した。今年度は、1年生の入学者数が30名程度増加したため、1年生で実施するグループ実習受け入れ先の確保に時間を費やさなければならない状況ではあったが、昨年と同様に取組を進めることができた。今年度、卒業生の就職率は昨年度の93.8%には届かなかったが、3月末現在で採用内定決定が約90%の成果が得られている。

キャリア教育コーディネーターによる企業訪問時に、企業が求める人材等について情報収集を行い、得られた情報をもとに授業にフィードバックし、職場実習に向けての事前指導にも生かすことができた。これにより生徒が職場実習の目標を設定し、実習ノートに書き込むなど、職場実習に向けた心構えや意欲の向上につながった。

また、関係機関等と連絡調整会議を実施することにより、福祉や労働等の関係機関とネットワークの充実を図ることができた。また、学校見学等を実施することにより、実際に生徒の様子を見てもらうことで関係機関の理解を深め、職場実習及び就職の受け入れの増加にもつながり、就労支援の充実を図ることにつながった。

キャリア教育コーディネーターが中心となって開催したビジネスマナー講習会では、県内の特別支援学校3校から参加があった。他校の生徒と共に学ぶことで、生徒が互いに意識し合い、就労(職場実習)に向けての意欲を高める効果があった。また、特別支援学校進路指導研究会においては、各学校の進路指導等の進捗状況及び当事業の取組状況を報告することで、就労支援に必要な情報を共有することができ、進路指導の充実につながった。

5 課題と今後の方策

企業等が求める人材の要素については、職業的なスキル・あいさつ等の「マナー」、仕事を継続し得る「体力」、対人関係の基盤となる「コミュニケーション能力」等があげられる。特別支援学校高等部では、「職場実習」などの実践をとおして、これらの力の育成とともに「働くことの意義」や「きまりを守ることの大切さ」等の意識を高めることができると考える。そのためにも、各学年での職場実習先の開拓及び確保が必要となる。

分教室に設定した職業に関するコース(「福祉・暮らし」、「流通・サービス」、「農園芸」、「芸術表現」、「ものづくり」、「環境サービス」)に応じた職場実習先及び協力企業の開拓を今年度も進めきた。昨年度も課題となっていた「芸術表現コース」の職場実習先については、学習内容に応じた企業も少なく、開拓もあまり進めることはできなかった。しかし、NPOや企業、病院などと連携して作品展等に積極的に参加することができた。その中で生徒たちが中心となってワークショップを進めるといった場面もあり、職場実習と同様の取り組みができたと考える。今後もこのような機会を増やし、職場実習先の開拓にもつなげたいと考えている。